

「つなげよう、支えよう森里川海」プロジェクト活動報告

活動日 2019年11月9日 ～ 2019年11月9日

活動名	第68回全国青年大会交流企画～外苑マルシェ～への出展	
活動団体名	「森里*皮*海」プロジェクトチーム	
活動目的	2019年11月9—10日で開催された全国青年大会の交流企画である「外苑マルシェ」へ出展し、大会参加者や地域の方々を対象に、森里川海のつながりについて「木戸川流域」の魅力と合わせて紹介する。木戸川の豊かな自然が育んだ「鮭」と「イワナ」を使って自然の恵みと森里川海のつながりを説明することによって、木戸川流域の地域住民の生業と、その恵みを生み出している阿武隈山系の豊かな森について知ってもらう。	
活動内容	具体的には、木戸川の源流である阿武隈山地の豊かな自然に囲まれた川内村の魅力を紹介。木戸川源流部の清流を活用し川内村で養殖されている「イワナ」、森の栄養を蓄えた木戸川の水で育ったのち降海し、再び木戸川へ回帰した「鮭」については、その皮を加工した小物を使い、実物に触れてもらうことで来場者の関心を集めた。また、木戸川の恵みのお裾分けとして、イワナの中骨を使った珍しいお菓子の試食や、鮭のレシピ集を配布し、福島県浜通りへぜひ足を運んでほしいと、メッセージをおくった。	
活動写真		
写真説明	鮭とイワナの皮を使った皮細工紹介	参加者だけでなく通行人へも声がけ
活動効果	「イワナ皮細工」や「鮭皮細工」の展示は、珍しさもあり、多くのひとが関心をもって立ち寄ってくれた。日常では「鮭」や「イワナ」から森・里・川・海を連想することはほとんどないが、木戸川流域の川内村と檜葉町でとれることや、その地域の自然の魅力をあわせて紹介することにより、「行ってみたい」「食べてみたい」につなげることができたと思う。	
今後の展望	身近なものから、恵みをもたらす海、森が育む清流、豊かな里の暮らしなど、それを育んだ自然との「つながり」をイメージしてもらえよう、伝え方を工夫していきたい。特に小さな子どもたちが、例えば鮭の切り身を食べる時に「これは遠い海を旅して、ようやくぼくの口にはいるんだ」と、日常生活の中でも森里川海のつながりを想像できるようなメッセージを発信したい。	